

## 第6回雄物川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、●：事務局)

### 1. 規約等について

●資料－1、2の説明。

○行政委員のみ代理出席を認めること。議事録を公開することについて了承。

### 2. 議事(1) 雄物川水系河川整備計画[大臣管理区間](素案)について、議事(2) 前回パブリックコメントで頂いた意見について

●資料－4、5、6、7の説明。

○計画の中で流下能力の達成のために河道掘削が位置付けられていますが、掘削はかなりの生物に大きな影響を与えます。生物にとって重要な中州、寄州等は掘削の一環としてどのように実施するのでしょうか。

●土砂の堆積は、河岸、寄州だけでなく中州でも発生しており、中州での土砂堆積等についても、平水位以上を掘削することで考えております。また、河道掘削については、目標に対して流下能力が不足するような所を掘削しなければならないということで、今の整備計画では一定の想定をして掘削箇所を設定しております。中州が今後どう変わるか維持管理の中でしっかり見ていき、その上で流下能力が足りない所は掘削していかなければいけないと考えております。

○大仙市内の玉川、雄物川に巨大な中州があちこちにあって、動植物との関係に注意する必要がある場所が多く存在するのではないかと思います。計画の中でしっかり配慮して進めてもらいたい。

○人と歴史・自然が調和した活力ある地域の創造という理念からすると、水源地である東成瀬村は雄物川の一番上流部にあるため、今後も未来永劫、流域の方々との付き合いが続くことになると思います。また、成瀬ダム直下での公園等の交流の場の整備、ダム工事で樹木伐採された跡地を活用した植林等をしていくには、地域や流域の方々の協力関係が必要不可欠になると思っております。これまでもダム協議会等で提案しておりますが、現実的にはなかなか進まない現状にあるので、今回の河川整備計画、あるいは今後の計画の中でしっかりと位置づけていく必要があると思っております。また、ダム直下に河川整備公園等の交流の場を作る計画があると理解してよいのでしょうか。

●これまで実施してきた直轄のダムにおいて、「水源地域ビジョン」の策定を進めてきております。「水源地域ビジョン」は水源地域と流域の皆さんが広く連携して、地域の活性化につなげていくことを目的としております。成瀬ダム完成時期の平成36年までに関係機関と調整をさせていただいて、ビジョンを作っていくこととなります。ダム下流域の整備についてもこのビジョンの中で調整させていただくこととなります。

- 水源地域と流域の交流、協力関係については、急に答えるのは難しいと思うので後で検討いただければと思います。
- 明治時代からサケの孵化事業をやっております。これに対して内水面、外水面からの助成や補助、応援はあるのですが、徐々に乏しくなってきました。孵化施設を通じて、川と親しめる取り組みをずっと行っていかなければならないと思っておりますので、河川環境の整備という中で河川を管理する国土交通省から補助、応援をいただける制度を作れないものでしょうか。
- 今までもイベントを一緒にやらせていただく等、ソフト施策においてご協力させていただいておりますが、財源措置を含めた事業については、具体的なお意見を伺いながら、検討させていただきたいと考えております。
- 米代川での中州の掘削にあたって、貴重種が多く存在するというデータのある場所がありました。しかし、現場に行ってみると、その貴重種が全部駄目になっていたということがありました。モニタリングについて追加、強調してほしいと思います。
- 資料一 6 の 92 頁 4.3.2 で、「定期的なモニタリングを行いながら」と記載しております。
- 従来よりもかなり短時間に激しい雨が降ることが、全国的にも見られますし、雄物川流域でも平成 23 年に起きているということですが、平成 21 年当時ではそれほど想定されていなかったようなゲリラ豪雨に対応した整備については、どのように反映しているのでしょうか。
- 資料一 6 の 14 頁、表 2-4 に代表的な洪水を載せております。雄物川での過去の顕著な洪水は基本的に前線の停滞による降雨が原因となっております。
- 昨年も青森や岩手で集中的な豪雨がありましたが、目標となるような豪雨としては、直轄河川においてゲリラ豪雨は対象となっております。ただ一方で、河川情報の収集・提供、洪水ハザードマップの作成支援、水防活動の強化支援等のソフト対策は当然対応していかなければならないと考えております。最近の集中豪雨を踏まえ、こういった対策が必要だと分かるような記載をさせていただければと思います。
- ソフト対策の主体は流域の自治体で、国土交通省はどちらかというと従の役割だと思っておりますが、ソフト的な対応についてできることがあれば、もう少し主体的に関わっていく記載内容だとより安心感が増すのではないのでしょうか。
- 資料一 6 の 137 頁以降に記載しておりますが、雄物川の避難勧告等は流域の市町村が行いますが、その前提として、氾濫が生ずるような水位に達するような危険がある、もしくは氾濫が発生した場合には、国土交通省は気象台と連携して、洪水予報を出すことになっております。
- 資料一 6 の 141 頁に記載していますとおり、TEC-FORCE というものを平成 20 年 4 月に創設し、技術的な支援を行っております。また、最近では、台風が接近してきた際、何日前からどのような対応をするか事前に設定しておくタイムラインというものを、試行的に各河川で始めております。このような記載も計画の中に入れさせていただきたいと思

ます。

- 雄物川の豊かで多様な自然環境の具体性が見えてこない。どういう点が他の大河川と比べて具体的に豊かで、多様な自然環境なのか、見た人にとってクリアに頭に入るような説明が欲しいと感じました。また、一般の人たちが見たときに、例えばトミヨ属淡水型、雄物型、あるいはカワシンジュガイ等がなぜ貴重なのかということがお分かりになっているか、疑問に思われます。具体的に、どうして貴重なのかということを含み記事でもいいので、説明を追加して欲しいと感じております。
- 資料-6の76頁、表3-7に雄物川の重要な動植物を一覧で整理しております。また、3頁の基本理念の2つ目に、雄物川の特徴として、上流部で湧水が見られ、トミヨ属雄物型、重要な種が棲んでいるといった内容を第5回の懇談会后に追加しております。
- 同じ資料の30頁に下流部、中流部①、中流部②、上流部の4つに分けてそれぞれ特徴的な自然環境を言葉でまとめておりますが、参考的な形でこの中からいくつか選んで写真等を付けながら記載させていただければと思います。
- 国でも生物多様性国家戦略が出ております。どこかで生物多様性という観点がないと、いつの間にかレッドリストの希少な魚だけが多い状態になりかねない。当たり前の魚がいることがいかに素晴らしく多様なことなのか、それが実は人との関わりになってくる。生物多様性の部分をどこかに入れていただきたいと思います。
- 玉川温泉の酸性水の問題について、資料-6の80頁に源泉と田沢湖の水質が載っています。玉川ダムの中和処理が始まってから田沢湖の水質が向上しましたが、源泉の水質自体から大きな影響を受けて、途中から下がっております。pHが約1.2まで上がっていたものが、急に1.1とか1.0近くまで下がっていて、自然から大きな影響を受けていることを忘れてはならないということだと思います。国の政策としてさまざまな対策を立て、水質に関する状況はかなり改善されていますが、自然界の問題、あるいは市民の生活の場の問題があるのではないかと思います。また、農薬や肥料が必ずしも十分に処理されていないのではないかなという意見もあります。水質に関しましては、そういったより難しい問題に向かっていくのではないかなと思っております。そのため、一般市民に対する水質改善の啓発活動をこれからもますますやっていただきたいと思っております。農業関係の方々には、農業排水がある一定の時期にかなり大きな水質汚濁を招いているということを自覚していただく必要があります。雄物川の水は、水道水の水源となっております。水源水をきちんと守ることの重要性を、モニタリング調査等によって市民に理解していただければ、意識が高まるのではないかなと思います。
- 農業との取り組みに関しては、農水省の方とご相談させていただきたいと思っております。水質事故への対策としては、市町村や消防の方の練度が上がってきているように感じております。連携を着実にして水質事故対策を怠りなくやっていきたいと思っております。
- 流下能力達成率は最終的に30年後で80%前後になるということですが、これが適正であるかどうか確認させてください。また、玉川ダムが完成以降、正常な流水の機能の維持に

必要な流量を上回っていることが多いですが、ここ数年を見ると危ういかもしれないです。渇水も生活をする上で大変問題となります。資料－6の13頁に記載されている対策では十分なのか納得しづらく、治水の部分に比べると利水の記述のボリュームが少なく感じるため、もう少し付け加えていただきたいと思います。

- 東北地方整備局管内の河川が整備計画で目標とする流量は、戦後1位の最大洪水、もしくは2位といった規模の洪水を想定しています。今回、雄物川でも戦後最大規模である昭和22年の洪水、並びに昭和19年の洪水を想定しており、洪水の規模的なものは、変わりません。流下能力の達成率は、概ね他の河川と同等程度と考えております。
- 渇水の点については、もう少し書き方のボリュームを上げたいと思っております。
- 現況と整備計画対応後の流下能力達成率を見ると、中流部①で46%から70%に、上流部は81%に上がりますが、下流部では77%から83%とそれほど上がらない。上下流で整備率を合わせているのかなと思いますが、下流部の安全率といったところはどのような考え方かお聞きしたい。また、津波対策を検討する際の、河川水位については洪水まで想定する必要はないものの、多少水位が上がっている時も検討されるのでしょうか。
- 雄物川の放水路に着手した約百年前から基本的な思想として、下流の秋田市街地に重要度をおいた整備を今まで行ってきました。中流部の整備をする段階に至っては、下流部の掘削や樹木伐採を先行し、河道の容量を確保します。中流部を閉めつつ、なおかつ成瀬ダムを建設して、流域全体の治水バランスを取りながら治水安全度を向上させることが雄物川の整備方針並びに今回の整備計画の目標とする考え方であります。
- 津波対策検討に対して、平水位以上の水位等における検討については、他河川での状況などを踏まえて進めていきます。
- 雄物川は秋田市にとって貴重な水資源であるので、水資源の確保、水質の確保もよろしくお願いいたします。

### 3. 議事(3) 雄物川水系河川整備計画[大臣管理区間](素案)に対する住民意見の募集方法について

- 資料－9の説明。
- 了承。

### 4. 議事(4) 今後のスケジュールについて

- 資料－10の説明。
- 了承。